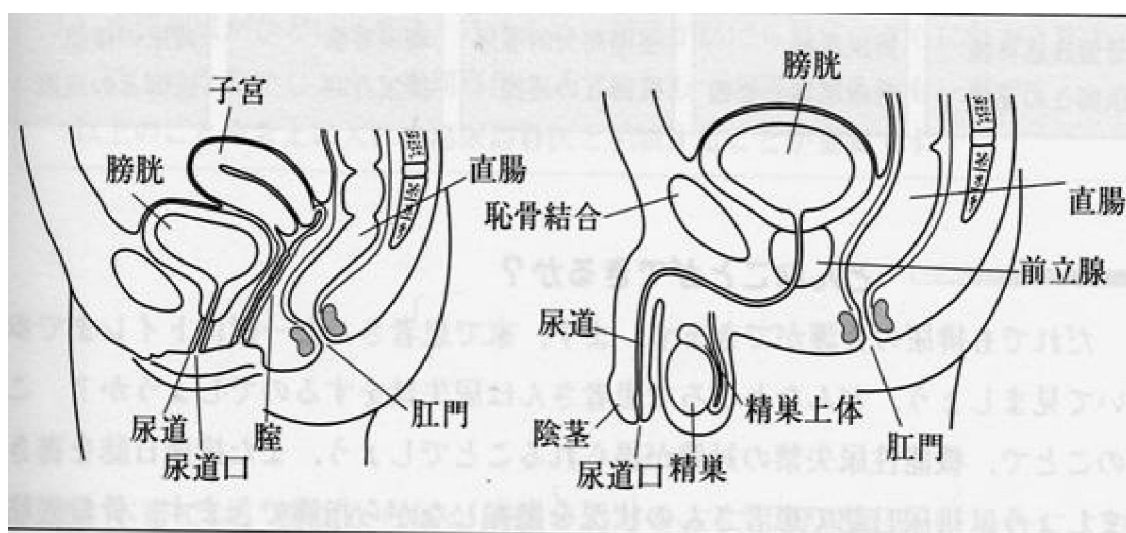


前立腺の位置

前立腺は腺様器官、栗の実状で成人の大きさは、左右径 4cm、前後径 2-3cm、上下 3cm で、重さ 10-15g です。前立腺は外腺と内腺に分けられて、外腺は癌の、内腺は肥大症の発生源母地です。前立腺は男性ホルモン（アンドロゲン）の作用のもとに前立腺液（精液の一部）を分泌します。前立腺肥大症は、内腺が大きくなることによって、前立、前立腺の形状が変化し、尿道の抵抗が高まることによって尿が近かったり、出にくかったりします。ただし前立腺の大きさだけで症状がでるとは限りません。



どんな症状があるかというとおおまかに二つあります。膀胱刺激症状-夜間 2 回以上、尿意切迫感、頻尿（日昼約 10 回以上）、閉塞症状-尿が出始めるまでに時間がかかる、尿が出てから終わるまでに時間がかかる、いきむ、尿線の中絶、尿勢の低下（放尿力の減退）、残尿感、その他、残尿が多いため尿失禁、尿が膀胱にかなりたまって出ない状態（尿閉）も時にみられます。前立腺肥大症の症状があらわれるのは早い方で 50 歳代からみられます。

診断について

- 1) 問診票に症状の程度、頻度と排尿に関する満足度を記入してもらいます。
- 2) 薬剤による排尿障害もみられるので、現在服薬している薬（または手帳）を見せて下さい。

- 3) 前立腺をさわらせてもらい大きさ、硬さ、表面の性状などみます。
- 4) 尿がたまった状態で超音波をして、前立腺の大きさや、膀胱内に異常がないかみます。
- 5) 検査用のトイレで尿の出方をみます（勢い、時間、量など）。
- 6) そして尿が残っていないか超音波などでみます。
- 7) 前立腺肥大症になる年齢（60歳以上）の方に前立腺癌のおそれがないか前立腺腫瘍マーカーである PSA を採血します。

治療について

症状についての問診、前立腺の大きさ、尿の出方、残尿などをみて治療方針を大まかに決めます。前立腺肥大症の症状が初期や中期の時は様子を見るかお薬を飲んでもらいます。

まずは尿道の緊張を緩和する薬($\alpha 1$ ブロッカー)を飲んでもらいます。

その他に前立腺を小さくする薬や漢方薬、植物製剤があります。

薬で改善しない場合や、症状が重症の時は手術療法（内視鏡下手術）を行うこともあります。

《手術療法》

- 1) 経尿道的前立腺切除術(TUR-P)
- 2) ホルミウムヤグレーザー前立腺核出術(HoLEP)
- 3) 前立腺被膜下切除術（恥骨上式、恥骨後式）